

## IV 再造林の推進に向けたコンテナ苗の通年植栽試験

(実施期間:令和3年度～6年度 予算区分:県単 担当:赤井広野)

### 1 目的

近年、再造林の省力化・低コスト化の推進のための切り札として注目されているコンテナ苗は、根と土が一体となった根鉢付きであるため、裸苗と比較して植栽後の乾燥に強いとされており、この特性を活かし、伐採、搬出、植栽までを連続して行う一貫作業システムに活用され、通年植栽の可能性が期待されている。

しかし、本県の気象条件での通年植栽の可能性は不明であるため、コンテナ苗の植栽時期の限界を明らかにする。

### 2 実施概要

#### (1) 方法

- ①日南町内において、令和5年4月から11月までの毎月、スギ2年生コンテナ苗(根鉢容積150cc。以下、「コンテナ苗。’)及びスギ2年生裸苗(以下、「裸苗’)を各22～32本植栽し、活着状況及び樹高等を調査した。なお、植栽前(令和5年3月)の平均苗高は、コンテナ苗が37.5cm、裸苗が36.4cmであった。
- ②鳥取市内において、令和4年に植栽を行った個体の活着状況及び樹高等を引き続き調査した。

#### (2) 結果

- ①日南町試験地：令和5年11月時点の活着状況は、6月に植栽したコンテナ苗で2個体、7月及び8月に植栽した裸苗で1個体ずつ枯死が発生したが、全体的に高い活着率であった(図1)。令和5年11月時点の平均樹高成長量は、コンテナ苗と裸苗に有意差は見られなかった(図2)。
- ②鳥取市試験地：植栽から1成長期後の活着状況(令和4年4月から7月に植栽した個体は令和4年11月時点、令和4年8月から11月に植栽した個体は令和5年11月時点の活着状況)は、9月から11月に植栽したコンテナ苗の活着率は裸苗より有意に低く(図3)、令和5年11月時点の平均樹高成長量は、4月及び7月から11月に植栽したコンテナ苗は裸苗より有意に低かった(図4)。

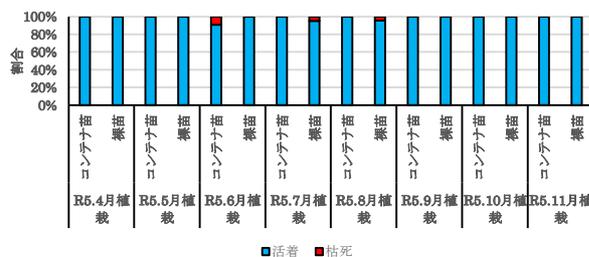


図1 令和5年11月時点の活着状況(日南町)

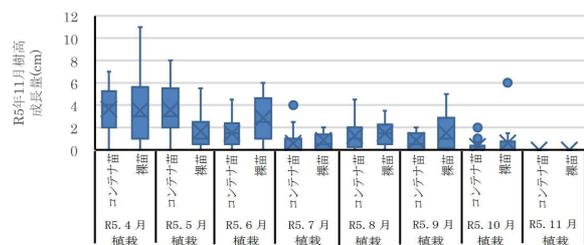


図2 令和5年11月時点の平均樹高成長量(日南町)

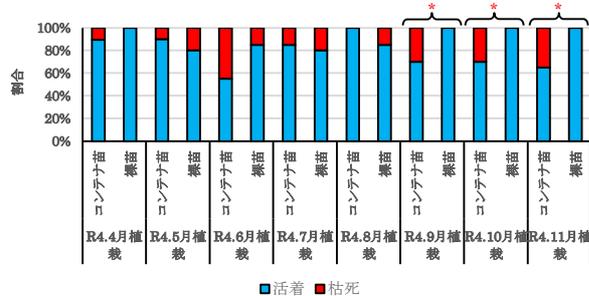


図3 植栽から1成長期後の活着状況(鳥取市)

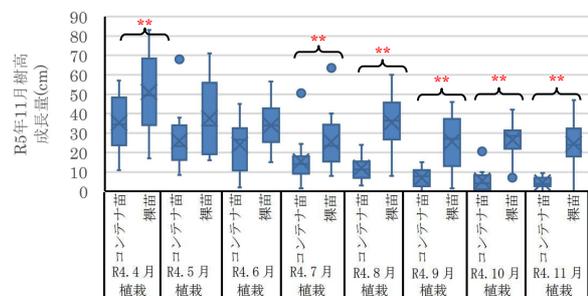


図4 令和5年度11月時点の平均樹高成長量(鳥取市)